

「生徒憲章」を中心にした生徒指導

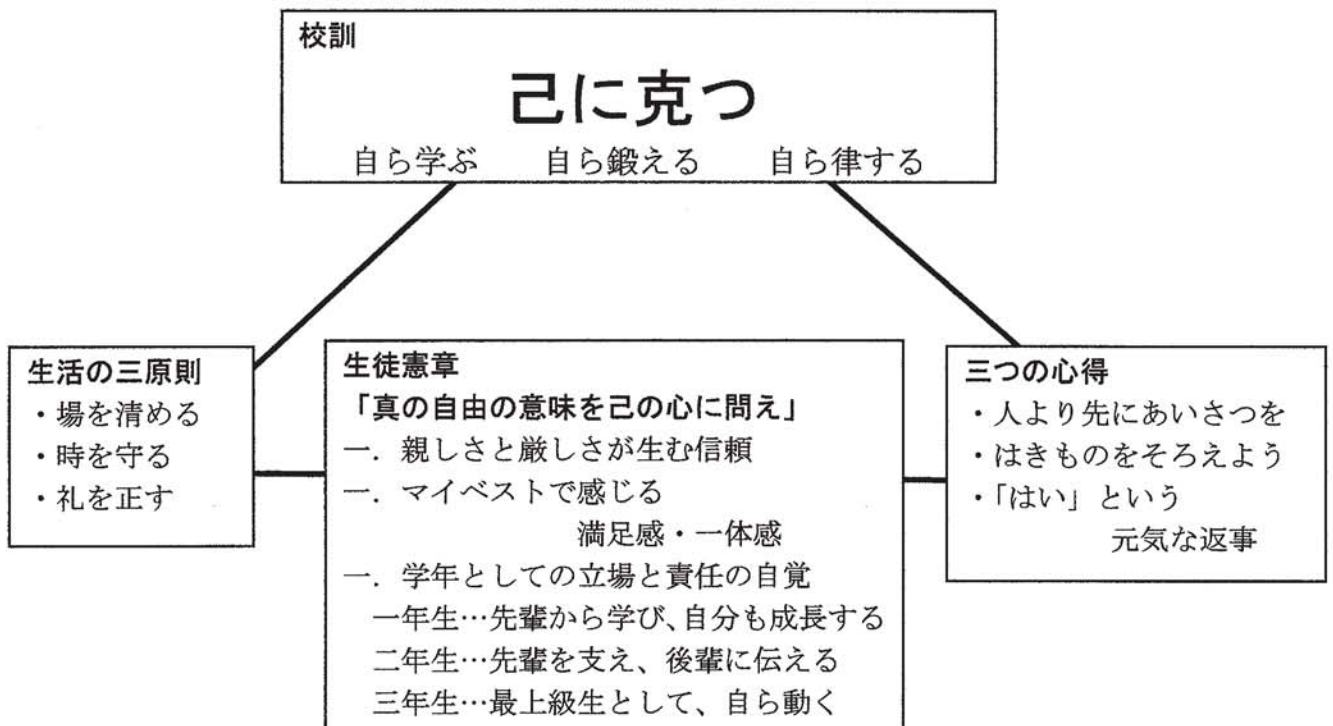
～よりよい生活をしたいという生徒の自覚を促す活動を通して～

設楽町立設楽中学校

佐々木英幸

はじめに

本校は、学級数5（特別支援学級を含む）、生徒数99名の中学校である。小規模校であるが、北設楽郡内では最も生徒数が多い中学校である。13年前に設楽町内の3つの中学校が統合し、現在の設楽中学校となった。統合時は各中学校の校風や伝統の違いから、様々なトラブルが起こったそうである。そこで、当時の生徒会執行部が中心となり、これからどのような設楽中学校を作っていくか、全校で話し合いの場が設けられた。何回も話し合いを重ねた結果「細かい校則をつくるよりも自分たちで考えて行動できるようにしたい」との考えに至った。そして、生徒たちから原案を出し「生徒憲章」が生まれた。現在もこの生徒憲章は設楽中生の生活の根本を表し、ここから自分たちでよりよい設楽中を作るためにどのような行動をすべきか考え、実行するようにしている。さらに具体的な生活目標となる「生活の三原則」「三つの心得」と合わせて活動している。



本校の生徒指導では、これらを基にして、設楽中の生徒らしい行動とは何か自分で考え、行動できる生徒を育成することを目標としている。

1 手立て

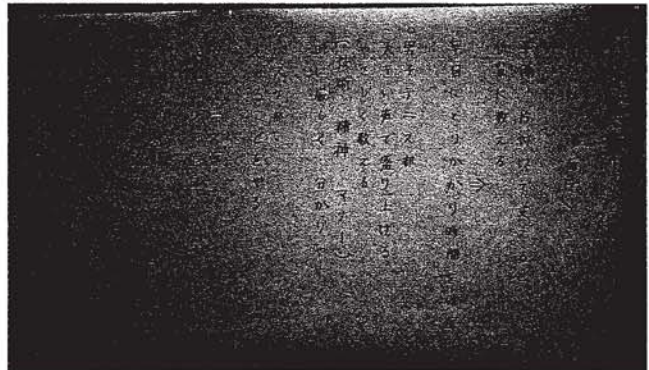
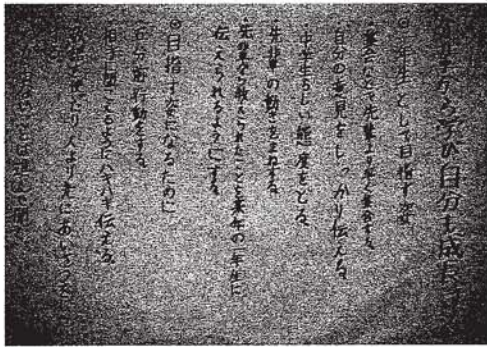
本校で目指す子どもの姿に迫るための手立ては3つである。

- (1) 定期的に全校生徒が話しあう場を設ける
- (2) PDCA サイクルでの振り返り活動をする
- (3) 全職員で共通理解を図り、足並みをそろえた指導をする

2 具体的な取り組み

(1) 定期的に全校生徒が話し合う場

4月に生徒総会を開き、生徒憲章をもとに設案中生としてよりよい行動とはどんな行動か、生徒同士で話し合いの場を設けている。この生徒総会に向けて、事前に学年単位でも生徒憲章について話し合いの場を設けている。生徒憲章にある「学年としての立場と責任の自覚」をそれぞれの学年で具体的にどのように実践していくのか生徒同士が話し合う。ここで話し合われた内容を、生徒総会で全校の前で発表する。この話し合いを通して、1年生は設案中生としての自覚を高めていく。また、2・3年生は先輩としての自覚を高め、一年間の生活方針を確かめる場となっている。



生徒憲章から設定した目指す姿

2年生は先輩と呼ばれる立場になり、部活動でも主力となって活躍する時期でもある。その一方で、3年生と比べ進路・進学、部活動について明確な目標も持ちづらい。中学校生活にも慣れて1年生の時の緊張感も薄れてくる時期でもある。そこで、生徒憲章にある「学年としての立場と責任の自覚」の2年生の項目「先輩を支え、後輩に伝える」を中心に部活動、学年の活動、学校行事の3つの場面を想定し、具体的に何ができるのか、どんな姿を目指すのかの話し合いをした。1年生の経験を生かし、これまで以上に準備、片づけをスムーズに行い練習に打ち込める環境を作ることや、積極的に行事に取り組むことで先輩を助けるといった意見が出された。また、学年の活動も協力し合い、先輩と呼ばれても恥ずかしくない行動をするといった意見も出された。

総会では各学年が生徒憲章についての報告をするとともに、全校を縦割りグループに分けて、先輩後輩の垣根を越えて1つのテーマについて話し合う「全体討議」を行う。今回は「真の自由とは具体的にどういうことか」「なぜあいさつは大切なのか」の2点を中心に議論した。2・3年生が積極的に意見を出すことで、初めて参加する1年生もつられてグループ討議に積極的に参加する姿が多く見られた。「真の自由」は生徒憲章の根幹の部分である。毎年、確認し合うことで、同じ文面でも、それぞれの年度で自分なりに生徒憲章を捉えなおし、新たな気持ちで向き合うことができている。



学年の枠を超えた話し合いの様子

(今日を振り返って) 今日、5.6時間目に生徒総会がありました。私は先輩に「質問したいことがあったので委員会ごとのときに、質問しました。そして答えが返ってきてよく分かりました。1年生の先輩で私は、「真の自由」とは何ぞ知れたため、その答えをしっかりと聞いて分かるようにしようと思いました。そして先輩が例もついで説明してくれました。おかげでよく分かりました。私は、生徒総会や分からないことを分かるようにできるように頑張りたいと思います。(明日に向けて) 自分の意見が言えよかったですね。

生徒憲章には、話し合いをする中で深めていくべきです。

生徒総会後の1年生の生活記録には、全体討議の中で3年生から分かりやすく教えてもらったことや、いずれ自分が教える立場になったときに説明できるよう

にしたいという思いが書かれていた。こうした活動が、良き伝統を受け継ぎ、先輩が下級生に理不尽な要求をしたり、威圧的な態度をしたりすることの抑止にもつながっている。

(2) PDCA サイクルでの振り返り活動をする

生徒総会で話し合われたことが実行され、よりよい学校生活に生かされているか、「生活の三原則」「三つの心得」を基にして PDCA サイクルを使って定期的に振り返りをしている。

この PDCA のチェックは2つの観点で行っている。1つは委員会活動で、「生活の三原則」「三つの心得」を基に委員会の特色に応じた目標を立てる。そして、毎週月曜日に行う全校朝礼の前に委員会ごとに集まり、委員会で立てた目標に対しての評価とさらに次の活動に向けての話し合いの場を設けている。最近では、こうした活動を自主的に工夫して行う委員会もある。例えば、広報委員会では、掃除の開始時刻に間に合うように放送を流して、実際に開始時刻に

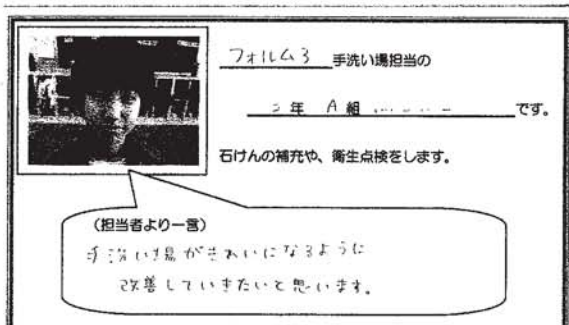
月曜朝礼チェックシート

食育委員会	
礼を正す ⇒ 「いただきます」「ごちそうさま」が言えている	
月 日	よかった点や改善策など全校に知らせたいこと
6月 9日	1-5-「できていないけど、いい加減にならないうえ」ポスターを作成 2-13-終業時の掃除がバラバラ 3-13-終業後のゴミの回収ができていない
6月 16日	2-8-給食後ができていないセキがあった、 3-8-
6月 23日	2-8-先生に注意されることがあった、 3-8-

委員会での振り返りの記録

ある。例えば、広報委員会では、掃除の開始時刻に間に合うように放送を流して、実際に開始時刻に

全員がそろったかどうか、清掃後にチェックする活動を始めている。この結果を、月曜日に持ち寄り、全校生徒に広めることで、清掃時間への意識を高めている。また、保健安全委員会では、トイレや洗面台の水周りをきれいにしようと活動している。委員会で担当者を決めて自分の担当箇所をチェックし、率先して整理整頓を行っている。担当者の名前と写真を貼り出すことで自覚と責任感を持って積極的に取り組む姿が多く見られる。



自覚と責任を持つ活動

もう一つは、自分自身の生活について「生活の三原則」「三つの心得」を基に振り返る活動を実施している。自分の生活を5段階で数値化して評価する。集計した結果を各学年にフィードバックして、改善された点と新たな課題を明確にすることで、次の行動につなげるようにしている。2年生の振り返りからは、『「はい』という元気な返事』の得点が他と比較して低いことが分かった。この結果を学年集会のテーマとし、どのように改善していくのか話し合いが持たれた。「3年生が部活を引退し、自分たちが引っ張っていく立場だから、もっと大きな声を出すべきだ。」とか「名前を呼んでも返事をしてくれないと、呼んだ側も気分が悪いし、どうしていいかわからない。」などといった意見が出された。2年生として部活動の中心として活動していこうとする立場や、呼んだ側の気持ちになって思いやる立場など、いろいろな立場から自分たちの生活を振り返ることができた。様々な立場から考えることは、他者理解にもつながる。同じアンケートを定期的に行うことで、生徒の意識を保つことにもつながっている。

自分の生活をふりまわろう

3年 B組 氏名 ()

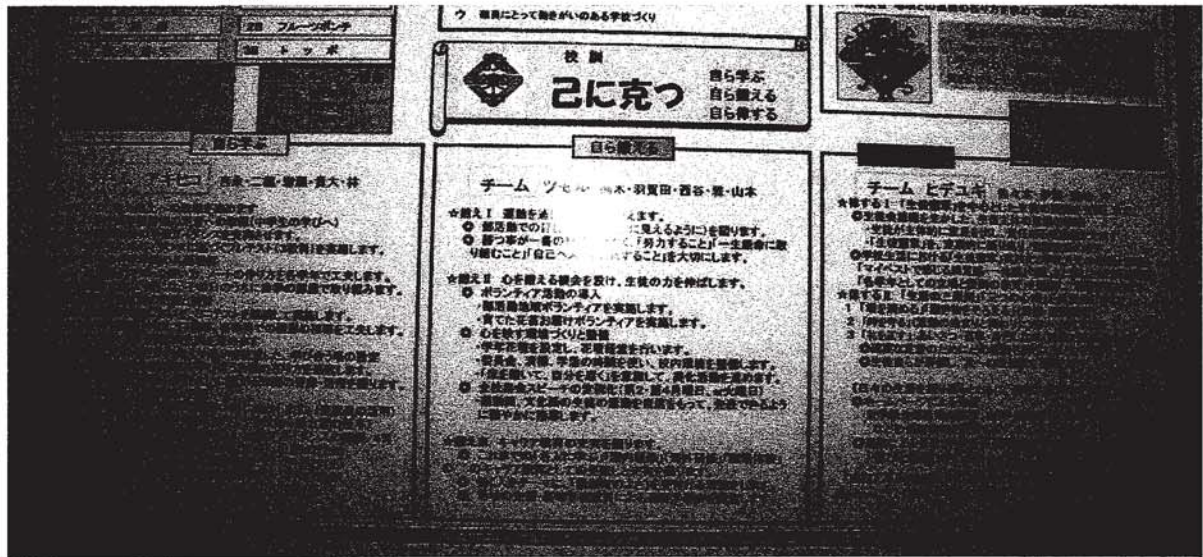
場を清める	はきものトイレ、げた箱、ベランダをそろえている	5・4・3・2・1
	時間いっぱい掃除に取り組んでいる	5・4・3・2・1
	机の中、ロッカーの整理整頓ができています	5・4・3・2・1
時を守る	提出物を期限までに出している	5・4・3・2・1
	授業や集合に遅れないように走らず移動している	5・4・3・2・1
礼を正す	人より先にあいさつができています	5・4・3・2・1
	「はい」という元気な返事ができています	5・4・3・2・1
	授業の始まりと終わりに、声を出してあいさつし、きちんと礼をしている	5・4・3・2・1

自分の生活を振り返るアンケートの実施

(3) 全職員で共通理解を図り、足並みをそろえた指導をする

毎朝の職員打ち合わせの中で生徒に関する情報交換の時間を必ず設けている。問題行動はもちろん生徒のよい面についての共通理解も図るようにしている。また、校訓にある「自ら学ぶ」「自ら律する」「自ら鍛える」をテーマにして、3つの部会（プロジェクト活動）を行っている。それぞれのテーマは「生きる力」を構成する「確かな学力」「豊かな人間性」「健康や体力」につながっている。各プロジェクトはそれぞれのテーマに沿った活動を企画・実践している。生徒指導に関する実践は主に「自ら律する」チームが担当している。生徒指導部とは別の組織であるが、互いに協力しあいながら、いろいろな先生の視点から立案して、実践を重ねている。

また、定期的にプロジェクトでミーティングを開催して、取り組みの成果と課題を確認している。新たな課題は、具体的な手立てを考えて対応するようにしている。全職員が、目的や意義、内容や方法を理解して実践することで、教科指導、部活動といったあらゆる場面での統一的な指導が可能となる。また、情報も共有しやすくなり、生徒理解にも役立っている。このプロジェクトの取り組みについては、学校ブログなどでも公開して、保護者や地域の方にも御理解と協力を得られる開かれた活動になるようにしている。



プロジェクト活動の公開

おわりに

日頃から地域の方々には学校行事をはじめ、いろいろな場面でお世話になっており、町で見かけた中学生の話を聞くことがある。中学生として恥ずかしい言動を見かけたという連絡をいただき、その度に指導にあたることもあるが、「ごみ出しをしているお年寄りの方を手伝ってくれた中学生がいましたよ。」というお話を伺うこともあった。生徒自身で考えてよりよい生活のために行動できるようになったことを感じさせてくれるできごとであった。学校での活動が地域に広まり、設楽町民の一人として、恥ずかしくない行動ができる生徒が一人でも増えるように続けていきたい。

